



2025年5月14日

各 位

会社名 エステールホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 丸山 雅史
(コード: 7872東証スタンダード)
問合せ先 取締役管理本部長 横内 達治
電話番号 03-6628-8480

減損損失の計上及び通期連結業績予想値と実績値の差異に関するお知らせ

当社は、2025年3月期（2024年4月1日～2025年3月31日）において、店舗の減損損失の計上を行うとともに、2024年12月17日に公表いたしました通期連結業績予想と実績との間に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 減損損失の計上について

当期において連続赤字見込みの店舗の固定資産につき将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価格を回収可能価額まで減損し、減損損失として2億44百万円を計上することとなりました。

2. 業績予想値と実績値の差異

(1) 2025年3月期通期連結業績予想数値と実績値との差異
(2024年4月1日～2025年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり当 期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 32,200	百万円 670	百万円 700	百万円 50	円 銭 4.77
実績値 (B)	31,271	188	316	△345	△32.94
増減額 (B-A)	△928	△481	△383	△395	
増減率 (%)	△2.88	△71.86	△54.85	—	
(ご参考) 前期実績 (2024年3月期)	31,699	163	303	△979	△93.27

(2) 業績予想値と実績値の差異の理由

通期の業績予想につきましては、売上高は、店舗での販売が平時の状態に回復すると見込みでしたが、当初見込みに至らなかったため、前回の予想を9億28百万円下回る見込みとなりました。営業利益、経常利益並びに親会社に帰属する利益につきましては、前回営業利益6億70百万円、経常利益7億円、親会社に帰属する利益50百万円で見込んでおりましたが、営業利益が4億81百万円、経常利益が3億83百万円、親会社に帰属する当期純利益が3億95百万円それぞれ下回る結果となりました。

主な要因としまして、宝飾事業において、生活必需品に対して遅れて需要回復が見込まれる

非生活必需品である宝飾品の需要が大きく回復すると見込みましたが、食料品等生活必需品の価格上昇が予想以上のため、非生活必需品である宝飾品の需要回復が当初見込みに至りませんでした。そのような中、70周年記念キャンペーンなどお客さまとのコミュニケーションを強めていく取り組みや人材育成の強化等お客様の購買回復に向けて積極的に展開してまいりましたが、一方で人員不足による人員体制の確保が遅れたこともあり、営業体制の構築に厳しい状況が続いたことによります。下半期になり、重要となる年末商戦や春の商戦を迎える中、徐々に売上が伸びてくるものの、当初の目標値には至りませんでした。

また、営業外損益に為替差益を計上いたしましたが、特別損失に計上しました店舗の減損損失により親会社株主による当期純利益は3億95百万円下回る結果となりました。

以上